

明治グループの新型コロナワクチンへの取り組み

明治グループでは、新型コロナウイルス感染症に対するワクチンの開発・供給に取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症は拡大と縮小を繰り返しながらも終息には至らず、予断を許さない状況が続いています。公的機関やアカデミア、パートナー企業とも連携して取り組み、感染症領域のリーディングカンパニーとしての社会的責任を果たしてまいります。

● 不活化ワクチン※「KD-414」の開発状況

- ・事業子会社であるKMバイオロジクス（株）とMeiji Seika ファルマ（株）は、不活化ワクチンの開発を進めています。
- ・承認に向けた最終段階となる第3相臨床試験（国際共同、成人40歳以下）を2022年4月に、また国内小児第3相臨床試験（6か月以上12歳未満）を2023年1月に、それぞれ開始しました。
- ・現時点では、2023年度中の承認・供給を目指しています。

※不活化ワクチンとは、大量に培養されたウイルスや細菌からウイルス粒子や細菌の菌体を集めて精製した後、加熱やホルマリン等の薬剤を用いて処理し、感染力や毒力をなくした病原体やその成分で作ったワクチンです。

詳細につきましては、以下ホームページもご確認ください。

KMバイオロジクス（株）

「新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への取り組み」

<https://www.kmbiologics.com/sustainability/covid-19/>

明治ホールディングス（株）

「ネクストストーリーズ／新型コロナ“不活化ワクチン”への期待」

<https://www.meiji.com/stories/4.html>

「パイプライン」

<https://www.meiji.com/innovation/pipeline/>

● 次世代 mRNA ワクチン「ARCT-154」※¹の国内臨床試験開始

- ・2022年12月にMeiji Seika ファルマ（株）は、Arcturus Therapeutics Inc.※²の開発した新型コロナウイルス感染症に対する次世代 mRNA ワクチン「ARCT-154」の国内第3相臨床試験を開始しました。
- ・現時点では、2023年度中の承認・供給を目指しています。

※¹ 次世代 mRNA ワクチン「ARCT-154」は、オミクロン株等の変異株に対しても有効性が期待されるワクチンです。接種後に抗原タンパクをコードする mRNA が細胞内で複製され、持続的に抗原タンパクがつくられるため少ない接種量でワクチンの効果が長く持続することが期待されます。

※² Arcturus Therapeutics Inc.は、2013年に設立された米国を拠点とする製薬企業です。後期臨床ステージの感染症用ワクチンをはじめ、肝臓や呼吸器の希少疾患に有効な mRNA 医薬品の研究開発を行っています。

<https://arcturusrx.com>